

---

# 無双伝 曹魏天下統一伝

マサムネ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無双伝 曹魏天下統一伝

### 【NNコード】

N4539N

### 【作者名】

マサムネ

### 【あらすじ】

この話は以前投稿した、「無双伝 孫吳天下統一伝」の曹魏バージョンです。少し設定は変わっていますが主人公の名前・能力はそのまま使います。

## 序章

後漢末期、誰もが乱の兆しを感じていた。朝廷の腐敗、災害異変により人心は揺れた。

先の見えない未来に入々は苦しんでいた。そんな中、太平道の教祖・張角が民の不安を煽り、挙兵する。後の言う黄巾の乱を起こす。朝廷は危機感を感じ各地に義勇兵を募つた。ここに乱を機と見て立ち上がつた者がいた。乱世の奸雄・曹操、彼は配下を引き連れて戦火に入った。

そして、それを追うように進む集団がいた。その中に大いなる志を胸の中に秘めた男がいた。

この物語は曹魏を支えた男の物語である。

## 序章（後書き）

なんか魏の話を無双でやつて書いて書きたくなりました。

## 主人公設定（前書き）

主人公設定です。

## 主人公設定

姓・龍「リュウ」名・星「セイ」字・皇天「コウテン」

身長・185cm

容態・戦国BASARAの前田慶次と同じ

歳・18歳

好きな物

家族と仲間・修行・料理・酒・女性・舞を踊ること・音楽

性格

「無双伝 天下統一伝」と同じ

生い立ち

生い立ちは転生者だが今回は龍家と言う後漢の時代では有名な家に生まれた。主人公の父から武と気の技をマスターし母と蔡文姫の父・蔡?から戦略や政治を学んだ。「この話の蔡?は後漢の学者では無く龍家に仕えている。」また、蔡文姫とは幼馴染である。のちにその才能を曹操に見込まれる郭嘉とはお互い意氣投合し義兄弟の契りを結んである。小さい頃一度曹操たちの所で修行した事がある。その時初期の魏の武将とも顔見知りである。そして、曹操が挙兵したこと聞きつけ、蔡文姫・郭嘉と一緒に曹操のもとへ向った。

夢吉「ユメキチ」

「無双伝 孫吳天下統一伝」と同じ

## 白竜「ハクリュウ」

「無双伝 孫吳天下統一伝」と同じ近くの山奥に潜んでいた伝説とされていた。龍星が山奥に行つた時に出会いそのあと白竜は龍星を認め愛馬になつた。

## 武器

赤竜刀「セキリュウトウ」・青竜刀「セイリュウトウ」

「無双伝 天下統一伝」と同じ

黄巾の乱　序章（前書き）

無双6の魏の話自分は好きです。では開幕

## 黄巾の乱　序章

黄巾軍が本拠にしている冀州〔キシュウ〕この地に黄巾軍を倒すため続々と官軍や義勇軍が集結し、対する黄巾軍も防戦の構えを見せあと少しで戦端が斬られる緊迫した空気が広がっていた。

そして、官軍の一つの部隊が進んでいた。すると近くから声がしてきた。

民1「お——い。た・・助けてくれ!」

民2「こ・・黄巾軍が俺達の村を襲っているんだ!」

どうやら黄巾軍が村を襲つており民が助けを求めてきたみたいだ。だが官軍は。

官軍「ふざけるな!」と民を突き飛ばした。

官軍「我等は帝の軍!なぜ民みたいな下賤の者たちを助けねば成らぬ!かまわぬ!進軍を続けよ!」と官軍を民達を置いて進軍の速度を上げてしまい見る見る遠くに行ってしまった。すると、後ろから一人の黄巾兵が迫ってきた。

黄巾兵「へへへッもう逃げられねーぜ!」

黄巾兵2「覚悟しな直ぐにあの世にいくからよ」と一人は剣を民に突きつけた民は「「ヒイイ!?」」と怯えていた。すると強風が吹き荒て兵士も民も目を瞑つてしまふ物だった。兵士は少し後ろに下がっていた。そして風が止み目を開けてみると目の前に今まで居なかつた顔や身体をロープで隠している大きな人がいた。当然、民は行き成り現れた人に目を丸くしていた。すると兵士たちは。

黄巾兵「な・・なんだテメヨーは！行き成り現れて！まあ丁度いい、おい！金目の物があれば出しなそしたら命は助けてやるよ」ところどは突然現れた人物に剣を突きつけた。すると

？？？「金目の物はない。ただ狩りに来ただけだ。」声からして男の者だった。

黄巾兵「はあーー狩りだ？なんだよそんな物此処には居ないぜ。」

？？？「居るさ弱い者から甘い汁を奪つてエサにしている頭に黄色い布を巻いた獸が」

黄巾兵「なつ！なんだと！」

黄巾兵2「ぞ・・ぞけんな！」と一人は頭にきて剣を上段に構え振り下ろそうとした瞬間。また風が起つた。すると兵士たちの視線が徐々に男からそれていくよく見ると男は青い刃をした。刀を抜刀しており兵士の胴体を両断していた。すると兵士達は声を上げる間も無く上半身が大地に落ち絶滅した。

男はロープのフードを取るつて先程の一閃を見て怯えている民達にしゃがんで目を合わせたすると民達は少し引いたが。

？？？「大丈夫か？」先程の鬼神の如き一閃を放った男が太陽ような笑顔を見て安心していた。すると我に返つた民達は。

民1「お願ひします！村を村を救つてください！」

民2「お願ひします！」と一人は男の前で土下座をして頼んだ。すると男は一人方に手を置いた。

？？？「安心しな、あんた達を見捨てたりしねーよ」と言つた。すると一人は天の助けだと思うほどの喜びに満ちていた。すると、後ろから大きな蹄の音がした。後ろを振り返ると白き馬がこちらに向ってきた馬は民達の上を飛び越えた。するとロープがそれから墜ちてきた。そして今日の前にいた男は居なく先程、飛び越えた馬に跨つて村の方に向つていた。

・・・・・

男が馬に股がつて村の入り口の所まで来ると一人の黄巾兵が倒れた民に剣を突き刺そうとしている瞬間、男は赤い刃の刀を抜刀しそれを投げたすると見る見る刀は兵士に向かつた。

黄巾兵「ぐへつ！？」そして刀は兵士の首に刺さつた。それを追い討ちする見たいに馬が兵士に激突しその反動で刀は飛び男の左手に収まつた。すると他の兵士達も異変に気付き集まつてきた。

黄巾兵「何にもんだテメエは」と兵士が言ひつと男は馬から下りた。

？？？「狩りだよ、民を苦しめる賊狩りだ！」と赤き刀赤竜刀で前に居た兵士の首が飛んだ。

黄巾兵2「や・・野郎！やつちまえ！」と兵士どもが突つ込んできた。俺は高速移動で突つ込んだ。

ザシュー！

ビシュー！

ザシュー！

ビシュー！と男が兵士どもを抜けて刀を下段に構えると。

兵達「「「「グhaar！」」」と剣は折られ首から血が噴出した。

？？？「ハツ！」と今度は横に刀を振った。

兵達「「「ギヤア！」」」と数人ほど胴体ごと切断した。

黄巾兵「な・・何なんだコイツは」

黄巾兵2「ば・・化けモンだ！」と言っていた兵士達は次の瞬間。

？？？「よそ見するな！」と男の刃が兵士達の首を喰らった。

兵達「「「ウオリヤアアアア」」」と5人か6人程度が飛び掛つてきた。すると男は高速で回転した。

兵達「「「ギヤアアアアア」」」と回転で起きた竜巻に飲み込まれた兵士達はぶつ飛ばされた。  
すると敵将見たな人物が出てきた。

黄巾将「おうおう、よくも暴れたな。だがいい加減にしろよさも「さもないと女子供の命は無いってどこでしょ？」そうそう、そのとうりつてだ・・誰だ！俺が今言おうとしたことを言つたのは！」敵将は辺り見回した。

？？？「後ろだよ後ろ」と若い男の声がする方を見るとそこには数人の女子供と好青年が一人と美女が一人居た。

？？？「人質は私たちが救い出しました。残りの兵も貴方を置いて

逃げていきました。」と美女が言つた。

黄巾将「ググググツー」と歯切れそう言つた。

？？？「さあーでどうする」と男は刀を敵将に突きつけた。すると。

黄巾将「ち・・チキショー————！」と逆上し突っ込んできた。  
男は刀を一旦鞘に納めた。

黄巾将「死ね————！」と剣を振り下ろしてきた瞬間。

ヒュアーンと風をきるが如く刀を抜刀した。すると将はただ大地に倒れた。そして男が刀を納めると村には歓喜の声が上がった。ある者はお互いの無事を喜びある者は家族の無事を喜んだ。そん中一人の民が男によつてきた。

民「ありがとうございます！御蔭で村は救われました。所でお名前はなんと言つのですか？」

？？？「俺かい？俺は」男は空を見上げて言つた。

？？？「俺の名は龍星「リュウセイ」—皆から龍の麒麟児とよんで  
あるー！」

これが魏に龍神ありと言われる男の初めての戦であった。

黄巾の乱　序章（後書き）

他の二人の名前は次回の話と合わせて書こうと思います。では、  
幕　　閉

## 黄巾の乱 捣点イベント（前書き）

今回から無双6あつた。拵点イベントを書いていたいと感じます。  
では、開幕

## 黄巾の乱 拠点イベント

龍星 side

あのあと村の人々に感謝された俺達は村の人々のケガの治療に当たっていた。まあ。官軍も今頃進軍しているだろうが、どうせ手間取つてるどううなあ。あの人は多分気を待つているだろなー。

？？？「キィイ？」と考えていると懐から小猿が出てきて俺の肩に乗つた。「コイツは夢吉、俺がガキの時からのダチだ。俺が何処に以降とも一緒に来るヤツだ。すると後ろから声がした。

？？？「どうしたんだい兄弟？そんな難しい顔して？夢吉も心配してるよ」この俺を兄弟と言い左手には打球根「ダキュウコン」を持つ柔軟な物腰の男。名前は郭嘉「力ク力」俺との関係は義兄弟の仲でそう呼び合っている。本来なら魏に着くのだが何故俺のところにいるのかと言うのは俺が「龍の麒麟児」と噂を聞きつけその折に出会い意気投合して義兄弟の契りを交わした。

龍星「うん？いや、のどかだなあーって思つていた。」夢吉を撫でながらそう言つた。すると郭嘉はクスクスと笑つていた。

郭嘉「相変わらずだねえでも、ホントは官軍の侵攻の遅れとあの人の動きを考えていたんだろ？」

龍星「ありやばれたか？」

郭嘉「とつぜせ、だてに君と兄弟をやつてるわけじゃないよ」と言った。相変わらずの洞察力だなあ

龍星「それで、俺になんか言つことがあるんだ？」

郭嘉「ああ、あと彼女が頑張つて御蔭で村人の治療がもう少しで終わること伝えようと思つてね」

龍星「おっ！もう終わるのかそれじゃ俺は少し村人達と話してもするか」と俺は郭嘉の所から離れた。

それから数人の村人から感謝の言葉をいたいた。そして、村の一角にケガを負つた者が集まる場所に着くと。美女がケガをして村人に手を翳すと光が出て村人を包んでいくするとケガが消えていた。

？？？「はい、もう大丈夫ですよ」

民「おおおっありがとうございます！」と村人は勢い良く立つて走つていた。

？？？「ふう」と美女は一息ついた。その美女は青を貴重とした長い薄い茶髪に頭には三日月と花を金で作られた飾りを付けていた。この女性は蔡文姫「サイブンキ」俺の幼馴染で親同士が決めた許婚だ。そして結婚も済ませているが、まだ、アツチの方までいつはない「アツチとはまあ想像にまかせます。」

龍星「よつー蔡「サイ」と俺は元気よく左手を上げて呼んだ。

蔡文姫「あら、龍」と穏やかに応えた。

龍星「治療は終わったのか？」と俺は蔡の近くに座った。

蔡文姫「ええ、あの人で最後よ」と応えた。

龍星「あまり、ムリはするないくらい治療術が仕えても、もとはお前の氣でしていることなんだから」「う

蔡文姫「大丈夫よこれくらい、それに私だって龍の妻です。苦しみの人を見捨てたりは出来ないわ」と笑顔で応えた。そう蔡も郭嘉も気の修行を受けて。俺と郭嘉は身体強化と攻撃と防御を蔡は治療の方を取得している。だが、氣は無限ではない。限界を超えると自分が死んでしまう恐れもある。すると夢吉が俺の肩から蔡の肩に飛び移つて、蔡の頬つぺたを自分の頭をこすり付けてきた。

蔡文姫「ふふふくすぐったいわ。夢吉」と笑いながらこう言つた。

蔡文姫「龍、この乱が終わっても世の乱は治まることは無いのかしら?」と笑顔だった。顔が曇ってしまった。だから俺は蔡を抱き寄せた。

蔡文姫「えつ・・りゅ・・龍／＼／＼いけないはこんな所で／＼／＼と急に抱き寄せられたことと村人が見ている前で抱き寄せられて白く輝く肌が急に赤くなってしまった。そして俺はこう言つた。

龍星「心配すんな、乱てのは人が起こす者。そして、終わらせる者も人だ。だからこの乱はいつか終わる。いや終わらせるだよそのために今俺達は立ち向かってじゃないか、生きて未来を作るために」と言つと蔡はハッとした表情をしていた。

蔡文姫「そうね、貴方はそのために今を頑張ってるのよね。ごめんなさい弱音を言つてしまつて」と誤つてきた。

龍星「気にするなつて! 蔡はやせらしい気持ちは俺に伝つてるからだ

からあまり思いつめないでくれ運命はいつも一つじゃないから「と優しく蔡を撫でていた。周りの村人も穏やかな表情でこちらを見ていた。

蔡文姫「あ・・・あの・・そろそろ恥ずかしいので／＼／＼ダメ！」  
なんでダメなのですか！？／＼／＼／＼

龍星「蔡がカワライ過ぎるのがいけないからだ！」と言つと蔡は困つたよに顔を真っ赤にしてただ抱き締められていた。周りの村人の反応は。

爺「はあー若いね^\_^」

村人「くああああ！俺もあんな美人さんを抱き締めたい！」

夫「あああ俺もあんな美人の嫁さんがほしかったなあ」

妻「ほおー、アンタ少し死合いでもするかい」

夫「か・・母ちゃん字がちがんですけどああああああああーーー？」

うん、何か一人天に逝かれた人がいたなあ。すると郭嘉が声をかけて來た。

郭嘉「はいはい、夫婦中は良いことは分かつたからそろそろ出発の準備できたよ」

龍星「ああ、わかったよありがとなあ兄弟」と俺が抱き締めるのやめたら蔡の表情は名残惜しいものに見えた。俺はそれを見逃すはずも無く透かさず。蔡の耳元で「続きは後でね」と言うとボン！蔡か

ら爆発音が聞こえた蔡は駆け足で馬のほうに向った。ホント、カワ  
イイ嫁だね。

そして、村の門に馬が止まっており俺は愛馬の神秘的に白く輝く白  
竜「ハクリュウ」に跨った。

村長「龍星様たちには村を救っていただきありがとうございました。  
」と村長が言った。

龍星「いや、人として当然なことをしたまでですよ。」と俺は当た  
り前のことをしたと言った。すると数人の若者が前に出てきた。

若者「龍星様！どうか俺達も戦に連れて行ってください…お願いし  
ます！」

若者達「…………お願いします…………」と言つてきました。

龍星「なぜ、戦に出ると？」俺は真剣な表情で聞いた。

若者「俺達を苦しめ黄巾どもにしかいしと貴方にござつたから  
ですお願ひします！」とまた頭を下げて言った。すると俺は。

龍星「君達の夢はなんだ？」と言つと行き成りのことで若者達は困  
惑したが一人の若者が言った。

若者「お…俺は商人なつて國を渡り歩きたいです！」と言つた。

若者2「俺は…学者になりたいです！」

若者3「オラはキレイな嫁さんが欲しいです！」と続々と自分の夢  
を言つてきた。

龍星「そうか、皆！自分の夢は大事だ！そのうちに秘めた夢を捨ててまだ俺についてくことは本当に正しいとは思えない。だから皆！自分の中にある大事な物捨ててくるなあ大事な物を守るために戦えそれこそが本当の戦いだ！」と一括りと若者達は黙ってしまった。すると、村長が出てきた。

村長「ではこれを持っていって下さい。」それは一枚の地図だった。

龍星「これは？」

村長「これは此処一体の地図これには黄巾の知らない道もあります。どうか使って下さい。」と俺に渡された。

龍星「わかりました。これはありがたく使わせてもらいます。」と受け取った。

龍星「それでこれで。ハイヤア！」と俺達は馬を走らせた。村から見送りの声も聞こえた。

郭嘉「さすがだね」と郭嘉が言つてきた。

郭嘉「あそこでもし加えていれば相手はもと農民とは言え戦場を経験している。この差は大きいこれでは無駄に命が消えるしこっちも思うように動けなくなるね」と郭嘉は俺が考えていたことを見抜いていた。だが一つだけ足りなかつた。

龍星「ただけど、もう一つあるんだぜ」と郭嘉は疑問的な顔をしていた。

龍星「夢を持つて明日を生きよつとする者を懲々死なせるかよ」と  
言つて白竜の速度を上げた。

さあてまずは教祖様でもぶつとしましますかね。

**黄巾の乱 拠点イベント（後書き）**

なんかこちの方が調子良く書ける。では、また次回！

黄巾の乱 一章（前書き）

本格的に戦の話に入ります。

龍星 Side

あれから俺達は官軍と黃巾軍が激突している戦場についていた。その間、郭嘉は馬の上で地図を見ていた。そして戦場に着くと予想通り官軍は進軍に苦戦、本隊の方も敵が着てるみたいだ。

郭嘉「どうやら相当でござつて。みたいだね。しかも本隊が警戒無しに前に来たことで伏兵に襲われているつて今の官軍はダメみた  
いだね」と郭嘉は官軍に呆れた。

蔡文姫「でも、」のまま、ほつといては前線の部隊とも連携が取れず官軍は全滅していします」と蔡も口を開いてそう言った。

龍星「ああ、まずは本隊を助けよつ恩を売つとけば後々役に立つからなあ。そのあと前線の部隊と合流して戦況を開拓するそれでいいな!」と言つと一人は頷いた。

龍星「それじゃいくぜ！」俺は白竜を走らせた。官軍本隊の方に向うと官軍は苦戦していた。すると馬に乗っていた官軍將に黄巾兵一人が馬に乗りながら斬りかかってきた。俺は刀を抜刀し後ろから一

黄巾兵達「「ギヤアアアア！？」」と斬られ馬から落ちた。官軍將は突然のこと驚いていた。

龍星「（）無事か？」

官軍将「あ、ああ助かつた。」と無事のこととを確認したら。

黄巾兵「てりやああ！」とまた斬りかかってきたが。

郭嘉「ハアッ！」あとから来た。郭嘉の打球根「大鵬〔ダイホウ〕」を振り横つ腹を叩き兵士をぶつ飛ばした。

郭嘉「あぶない所だつたね」

龍星「いや、そうでもないわ」と軽く応えた。そして次々と黄巾兵が群がってきた。

黄巾兵「テリヤア！」と兵一人が俺に向つて槍を突いてきた。だが、当たることは無かつた。なぜかと言うと俺はもうそこには居なかつた。兵は辺りを見るが居ない。すると上を見ると黒い影が落ちてきた。だが太陽の光で兵は目が眩んでいた。

シャーン！！

黄巾兵「ギヤアアア！」と俺は瞬時に上に飛び落下した勢いで青竜刀・赤竜刀を抜刀し切り伏せた。

俺の基本スタイルは一刀流だ。俺は透かさず切り込んだ。

龍星「ハアアアアア！」勢い良く刀を振りかざしていく俺。

黄巾兵「ギヤアアア！」

黄巾兵2「グハアアア！」

黄巾兵3「アバラツ！」次か次ぎえと敵を切り伏せていく。

黄巾達「ハツ！」と後ろから郭嘉の声と同時に五つの球体が飛んでいた。

郭嘉「ハツ！」と後ろから郭嘉の声と同時に五つの球体が飛んでいた。

黄巾兵「ギヤアアア」と球体は兵達にぶつかり墜ちていった。

郭嘉「まったく熱くなりすぎだよ！」と自分の後ろに入った敵兵を大鵬で吹っ飛ばした。

龍星「大丈夫さあ後ろはお前が守ってくれるからよ！」と俺も一刀で正面の敵に斬撃を放ち次々と吹っ飛んでいく敵。

郭嘉「フツもちろんさ」今度は郭嘉が大鵬を前に突き出すと球体が高速で正面の敵を吹っ飛ばした。

龍星「それじゃいくぜえええ！」と言いつとお互いの体が青く光出した。そして、お互いの得物を大きく振りかざし振り下ろして地面にぶつかった瞬間。

ズドーン！？

黄巾達「ギヤアアアアアアアアア！」と多くの黄巾の声と共に俺達の周囲にいた。黄巾達は一掃された。そして、少し離れた所に蔡が傷を負った兵士に「澄響（チヨウキヨウ）」を持っていた。

蔡文姫「希望の光よ」と言うと美しい旋律と舞から光が放たれる。

それを受けた兵士達の傷が消えていく。すると、黄巾兵達が来たが  
蔡は澄響を構えた。

蔡文姫「はつ」と弦を弾いて音色が靡いたのと同時に氣弾が撃たれ  
それが当たると。

黄巾兵「グハア！」と倒されていく。蔡は澄響を引き舞で移動しながら敵を倒していく。その美しい音色と舞に官軍兵は釘付けだつた。そうこうしている内に官軍本隊に群がつた敵は一掃された。

官軍将「助かった。あとで褒美をわずかよう」と言つてきた官軍将  
龍星「いいえ、自分達は通りすがりの者なので結構です。では、私  
達は先を急ぐので御免！」  
俺達は馬に跨り一度黄巾の本陣に進む道まで向つた。するとそこには落石によつて進軍が遅れている官軍がいた。

郭嘉「おやおや、官軍は落石で進軍が出来ずにはいるか、多分これは操つてる者がいるようだねえ」

蔡文姫「それではその者を討てば落石はとまりますね」

郭嘉「ああ、そしてその人物はこの落石の後ろにいる」

龍星「なら話は早いや一気に馬で駆け抜けていくことで、時間を使えば敵に勢いを与えることになるからなあ二人とも良いか？」

郭嘉「もちろんさ」

蔡文姫「あなたとなら何処までも行きます。」

龍星「それじゃいざ参らん！」と俺たちは馬の速度を上げた。そして官軍将が前を邪魔してたので飛びこえた。

官軍将「うおっ！？」突然、頭上を馬が通り越したことに慌てて落馬したがすぐに起き上ると俺達に向つて。

官軍将「き・・貴様等!・し・・死ぬきか!?」と言つてきたが無視をしていると正面から岩が来たが右に避けるとまた岩。今度は青竜刀を抜刀し岩を斬つた。そしてもう少しで抜けるところまで来た瞬間。左上から来た岩が横に当たつた反動でこちらに向つてきた。俺は直ぐに反応したが一步遅く岩が迫つてきた。すると球体と気弾が飛んできた。そして岩を碎いた。その球体と気弾は郭嘉と蔡の物だつた。そして俺達は坂道を上りきつた。その先に怪しげな光を発しながら岩を操る男とその部下がいた。すると男の体から光が消えていった。

張梁「なつ！ま・まさかこの岩の道を駆け上がる者達がいるとは！だが、この張梁！易々と首は渡さん！」と刀を抜刀した。

龍星「へえーあんたが張梁さんか? だつたらアンタを討つて岩を止めますか流石にあれつて良い迷惑だし」と言うと張梁は部下に突撃の命令を下した。俺は一人に後ろに入る様に指示した。

た。そして、一直線に走り出した。

黄巾達「「「「ギヤアアアアアアアアアアー!?」」」白竜の突撃に  
黄巾達は吹つ飛ばされてハツた。

張梁「く・・くぐるなああああ！」と刀で防御しようとしたが俺は

赤竜刀を抜刀して。

龍星「うおおおおおおお！」

ガウツ！ ドツ！ ボンツ！と最初に刀のぶつかつた音がした瞬間。張梁の刀は折れそのまま赤竜刀は張梁を捕らえてそして、首が空高く飛んで行き地上に落ちた瞬間。俺は大きく声を上げた。

龍星「敵将・張梁！ 龍皇天が討ち取つたアアアアアアー！」

・  
・  
・  
・  
・  
・

ここは龍星達が二つあつた坂道の片方の道そこには青の旗に曹と一文字掲げる部隊がいた。その部隊を指揮する男。曹操この乱を利用し天下に名を上げようとしている者。彼はただじっと部隊を動かさず待っていた。そこに一人の男が来た鬚を生やし長い陣羽織風な上着を着て、その顔は歴戦の勇士の顔をしていた。

？？？「孟徳……」曹操を字で呼ぶ男。

曹操「なんだ・・・夏候惇」と男の名を言つ曹操。この男・夏候惇。曹操が絶大な信頼を寄せる将の一人彼も曹操の名を上げるためこの討伐軍に参加している。

夏候惇「こちらから攻めないのか？」

曹操「そうだ・・・このまま待機だ。」「こちらの道でも落石はあるが少ない量で上手く潜り抜けることも可能で、敵の横腹を突くことが

出来る。しかし、曹操は全部隊を待機させた。まるで何かを待つようだ。

夏候惇「孟徳一体お前は何を待っているのだ」と聞いてくる夏候惇。

曹操「時を待っている」と曹操は意味あるげな言葉を発した。

夏候惇「孟徳……それはどういって殿…………なんだ淵騒々しい」夏候惇が「淵」と言つて男氣ひくそな雰囲気を出す男。この男も曹操が絶大な信頼を置く将・夏候淵である。

夏候淵「いやいやいや、わるい惇兄！それより殿！先程、物見から報告だと敵將張梁が討たれました！」

夏候惇「本当か！？一体誰が討ったんだ？」

夏候淵「そ・・それが惇兄も知つてゐるだろ？あの龍の坊主がやつたんだよー。」

夏候惇「なに！龍が此処に来ているのか！？」すると曹操が大きく声を上げた。

曹操「全部隊！待機命令解除！これより我が部隊は黃巾賊を討つべく進軍する！」と高らかと叫んだ。そして、部隊は進軍を開始した。

夏候惇「孟徳・・まさかお前これ待つて」

曹操「ふん・・ぢつでありますかなあ。さあ！我等も行くぞ続けい！」  
と曹操は馬を蹴った。

竜神と奸雄の再会はもう少しまで来ていた。

黄巾の乱　一章（後書き）

最近、寒くなっています。皆さんお体には気を付けて下さい。  
では、また次回！

黄巾の乱 一章（前書き）

前回の続文です。では、開幕

## 黄巾の乱 一章

龍星 side

あのあと官軍全部隊は進軍を再開した。しかし、黄巾本陣に近づくと突如強風が吹きまたしても進軍が出来なくなっていた。

龍星「またか、毎回これだと流石にめんじくせなあ」と俺は溜め息を突いていた。

蔡文姫「だめよ龍。」JJKでそんな溜め息については」とウチの嫁さんに言われた。

龍星「わあーてますよ。まあ風は術者を潰さないと止まんないし官軍には無理だろ」JJK俺たちで頑張なんないとなあ

蔡文姫「ええ、味方に勇気の旋律を奏でましょ。私達で。」と言ふ。すると突風が吹き白竜は動じなかつたが蔡の馬が突風を諸に食らひ暴れてしまつた。

蔡文姫「キヤー」と蔡は落馬しそうになつたが落ちなかつた。

龍星「大丈夫か？」

蔡文姫「え・・ええつありがと。で・・でも／＼／＼／＼／＼蔡の顔が赤いのは蔡も白竜に乗つていた。しかも俺の前にお互いの身体があと少し動けば触れるぐらいだった。俺は咄嗟に彼女の手を掴み此方に乗せた。すると、郭嘉が来た。

郭嘉「おや、これはお邪魔だつたかなあ」と茶化すよつこクスクスと笑つていた。蔡は相変わらず顔を真つ赤にしていた。

龍星「茶化すなよ。で、俺たちはどう動く

郭嘉「そつだね、村で貰つた。地図が役に立つたよ。これによると南に崖がある。今見てきたけどそこから上がれるし敵の横突ける。」

龍星「よし、俺達はそつちから行こう。」と俺たちは移動しようつとした時。

蔡文姫「り・・龍そろそろ下りして貰えます。」と乗つていても身長差があるので上田づかいでこちを見てきた。だが俺は。

龍星「やーーだ」と言つて馬を蹴つた。

蔡文姫「ええええええっ！？」蔡の声が空に響いていた。

そのあと直ぐに俺達は南の崖に付いた。そこは階段のいよいよ削れていって上に続いていた。

また、ここに来る際、蔡は静かだつた。でも、いつぞり自分の身体を俺に寄せてきたこと俺は気付いていたがあえて黙つていた。

龍星「へえーこれは見事に階段ができるなあ

郭嘉「まあね。まあ愚図愚図してられない。早速登ろう。」

龍星「よつしゃこべ「あ・・あの・・」うん、何だよ蔡

龍星「ああ、」んなの直ぐに登つときあつぜん

龍星「え？問題あるか？お姫様抱っこ！」 そう俺は葵をお姫様抱っこしていいる。

蔡文姫「も、知りません！／＼／＼」と顔をブイと向けてしまった。俺はそこが可愛いと思い笑ってしまった。

郭嘉「もつ良いかい？行くよ。」と郭嘉はジャンプしながら登り始めた。

龍星「ああ、今行く」と俺も登り始めた。蔡を抱っこしながら。着くと兵は居なかつた。流石に蔡を下ろして、その先に進んでいくと敵部隊を発見した。丁度。小山を壁にしておりその後ろは無用心に兵は居なかつた。俺達はそこに隠れた。

郭嘉「しかし、いくら何でも後ろを放置とは余程彼等は奇跡の力を信じてるようだ。」

龍星「ああ、だがお蔭で好機が訪れたんだ。有りがたい話さ。」俺  
が言つと郭嘉は頷いた。

蔡文姫「こまま真っ直ぐ行けば後ろから奇襲が出来ます。しかし、我等は少數これでは奇襲には成りません。」

龍星「大丈夫、大丈夫、ここに困ったときに助かる先生がいるから。なあ！せ・ん・せ・い！」と俺は郭嘉の肩を叩いた。

郭嘉「やれやれ、仕方ないなあ」と巨大な球体を数個出した。

郭嘉「ハツ！」と大鵬を上に突き上げると球体は空高く舞い上がりた。そして、小山の向こう側に入った。敵部隊に墜ちた。すると慌てた声が多く聞こえていた。どうやらあちらはパーティになつてゐるなあ。

龍星「よつしや敵さんはお祭り状態だ此方も仕掛けるか」と俺達は敵が混乱状態を見て突っ込んだ。俺は気を右手に集めて思い切り振ると突風が吹き砂埃がたつた。

黄巾兵「なんだ、なんだ！？」

黄巾兵2「くそ！ 何も見えね！」

黄巾兵3「ギヤアアア田がああああ！？」ますます、混乱していく  
兵士達、俺は田の前の黄巾兵をぶん殴った。

黄巾兵4「グヘッ！？」と吹っ飛ばされて他の兵士にぶつかった。

「敵襲！ 敵襲だ――！ 敵が来たぞ――！」と声荒げていた。

黄巾兵「な・・なんだと！」

黄巾兵2「まじかよクソ！」と一人の兵士が剣を抜いて斬りかかる

た

黄巾兵3「うおー」「ノヤローー！」と剣を避けると逆に斬りかかつた。それを合図に同士討ちが起きた。

張宝「こ……こら慌てるではない！」と一人だけ声をだして混乱を止めようとする頭の派手な黄色の帽子を被っている男。俺はそいつ掛けで走りだした。

張宝「き……貴様！」と剣を抜こうとしたが遅い。俺は柄を押さえ赤竜刀を抜刀して一閃！

張宝「ギヤアアアアー！？あ……熱い！？ギヤアアアアアー！？」と切り口から炎が発生し張宝を包み込み一瞬で灰にしてしまった。

龍星「敵将！張宝！討ち取つたり————！」

黄巾兵6「ハア！？ちょ……張宝様がやられた！？」

黄巾兵7「お……俺は逃げるぜえ！？」

黄巾兵8「ま……待てよ！」と続々と敵兵が逃げ出した。一方突風が吹いてる場所では突風が止んでいた。

黄巾将「な……なんだ！か……風が止むとはー？張宝様はどう成されたか！」すると右側から声がしてきた。そちらを見てみると黄巾部隊がコチラに来た。

黄巾将「な……なんだ貴様等！何故コチラに来る！早く持ち場に戻れ！」

黄巾兵7「張宝様が討たれたんだよ！もう黄巾はお終いだアアアア！」

黄巾将「コラ！逃げるなきせ「報告！敵主力がコチラに雪崩れ込ん

できます！」「何！クソ守備隊はどうした！」

黄巾兵「それが各地で離反する者が出て戦線を維持すること出来ません！」

黄巾将「クソ！黄天を蒼天が喰らうと言つのか！」「そのあと官軍主力と激突逢えなく散つた。

そして、この出来事が起きる前に龍星達は先に黄巾・首領張角が陣を構える祭壇に向つた。

すると、祭壇を守る兵士達がコチラに向つてきた。すると蔡と郭嘉が俺の前に出て敵を足止めに入った。

郭嘉「ここは僕達に任せてもうつよ」

蔡分姫「龍は張角のもとへこの悲しき旋律に終止符を…」と俺は頷き祭壇に向つた。

そして、祭壇に向つとそこには奇妙な服装と大きな杖を持った男が立っていた。この人こそ黄巾・首領張角である。すると男から光が出て空中に上がった。

張角「蒼天はすでに燃え尽きておる・・・天意に背く愚者どもよ裁きを受けよ！！」すると祭壇の周りから炎が出てきた。俺は黙つて自分の得物を構えた。すると張角は数個の火炎球を出し俺に向つてきた。俺はそれを全て切り伏せた。

張角「キエエイ！」と俺に向つてきた。俺は横に避ける。そして、張角は方向転換し俺に突つ込んできた。杖で攻撃してきたが鎧迫り合いになつた。

ギイイイイイイイー！！

最初はお互い動かなかつたが徐々に俺が押し始めた。最後は俺が押し切つて後ろ回し蹴りを張角の腹に入れた。

張角「グhaar！」と吹っ飛ばされていき炎の壁に突っ込む寸前に空中で止まつた。

張角「おのれ！天の奇跡の技とくと見るが良い！」すると透明の兵士が出て俺に攻撃をしてきた。

龍星「ハツ！」

スカッ！と一閃入れたが空振りしてしまつた。

龍星「これは！でも、この炎や透明な兵を出すの一人の人間の力では不可能だ。何か仕掛けが有る筈だ。」と俺は辺りを見るといつの間にか祭壇の周りに怪しく光銅像があつた。俺は身体に溜めていた気を開放した。

カアーン！気を開放された途端俺の以外の世界がスローモーションに成つていた。そして。

ザーン！

ザーン！

ザーン！

ザーン！と高速移動で銅像を全て斬つた。気の開放が終わると全て

の銅像に亀裂が入り崩れていった。

すると張角の身体に纏っていた光は消え地に降りて来た。周りに入た透明兵は消え。炎の壁も弱まっていた。

張角「な・・なんと言つことだ。まさか凡愚の輩に我が奇跡が！」  
その瞬間を俺は見逃すはずも無く。

龍星「セイヤアアアアア！」と青竜刀・赤竜刀を振りかざし斬り伏せた。

張角「ぐおおおおおおんっ！」と斬られた衝撃で吹っ飛ばされた  
張角は膝を着いた。俺はゆっくり近づいて、青竜刀を突きつけた。

張角「強き力を持つ者よその力を世に見せ何を成さんとする」と問  
いかける張角。

龍星「俺はアンタを超えて未来に進む。」と言つと張角は大笑いを  
した。

張角「愚かな蒼天は終わつておるのに未来に進むことなど出来るは  
ずが無い。まして一人の力で何が出来る。」とい言つ。だが俺は。

龍星「ああ、確かアンタの言う蒼天は終わつている。終わつている  
物に未来は無い。そして、俺一人の力では到底届かない物だ。だが、  
仲間が入れば未来は作ることが出来る。一人でも仲間さえ入ればど  
んな逆境さえも超えることが出来る。そう今この国を作るのは天の  
奇跡でも英雄でも無い人の絆がこの世を未来を作るのだと！」と俺  
は天に届く位に声をだして張角に言つた。そしてまた、大笑いをし  
て立ち上がつた。

張角「ならば、汝が言う仲間と作る未来を天より見てやう。」と言つと全身に炎が回り一瞬で灰になつて消えた。

龍星「張角さん。まあ見ていて下さい。俺が信じじる仲間と俺が認めた主と一緒に未来を」と言つと後ろから

「？？？」ほおお主の言つ主とはど言つ人物だ」と声が聞こえた。

龍星「その人は他人より優れていて昔から何かをする時も型破りな方で現実主義者だ。でも、人の力を信じてそのためにこの乱に立て人が人として生きれる自由な世を築く人物ですよ」

「？？？」ふん、ならお主も力を貸せ龍よ。」

龍星「承知しました。曹操殿」と振替えて見るとそこには曹操その人がいた。

曹操「龍よ何時ものように「孟徳」と言え」

龍星「分かりました。孟徳殿。何故此方に」と俺が言つと。

曹操「龍見物よ」と少し笑み浮かべ言つた。

龍星「貴方らしいことです。」と苦笑いで言つた。

この瞬間、竜神は黄天を喰らい奸雄との再会を果たした。この瞬間から曹魏の天下の道が始まった。



黄巾の乱　一章（後書き）

年が開く前に書けてよかったです。では、皆様良いお年をー！では、また、次回！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4539z/>

無双伝 曹魏天下統一伝

2011年12月31日18時53分発行